

北大の全学教育はどのように行われているか？ —平成 12 年度後期のアンケート調査—

西 森 敏 之^{*}，小 笠 原 正 明，細 川 敏 幸

北海道大学高等教育機能開発総合センター

How are the Classes of General Education Conducted in Hokkaido University?

Toshiyuki Nishimori^{**} , Masaaki Ogasawara, Toshiyuki Hosokawa

Center for Research and Development for Higher Education, Hokkaido University

Abstract — Research about how the classes of general education are conducted was carried out by using questionnaires in Hokkaido University at the end of the school year from April 2000-March 2001. We asked teachers the following questions: (1) Do you try to make the students question, discuss or debate in your class? (2) Do you give assignments to the students? (3) Do you use audio, visual or audiovisual material? (4) How many times do you conduct examinations? (5) How do you grade the students? We got 291 responses. Concerning question (1), the ratio of positive answers was very high, especially in subjects such as Freshman Seminar, Languages, Social Science including Composition Instruction and Health Science. For questions (2) and (3), the ratios of positive answers were also very high.

(Received on November 29, 2002)

1. はじめに

北海道大学の全学教育では、授業はどのように行われているのだろうか。学生の発言を促すためにどんなことをしているのか？ レポートや演習問題、読書指定のような宿題を課しているか？ 授業で視聴覚的教材を使っているか？ 試験は何回行って、成績の評価はどうしているのだろうか？ このような質問内容で、平成 13 年 2 月の（平成 12 年度後期の）

全学教育の成績提出時に、アンケート調査を行った。

アンケートの質問紙は最後に付録として掲載してあるが、最初に Part I として、該当科目のカリキュラム上の分類と科目名、学生数を尋ね、2 ページ目に Part II として、次のような質問をしている：

- （1）授業の中で学生の発言を促すための工夫をしていますか。
- （2）宿題を与えていますか。

^{*}）連絡先：060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目 北海道大学高等教育機能開発総合センター

^{**}）Correspondence: Center for Research and Development for Higher Education, Hokkaido University, Sapporo 060-0817, JAPAN

表 1. 回答分析のため設定した科目群

科目群	回答数
(a) 健康体育科目	2
(b) 総合科目	4
(c) 人文科学 (論文指導あり)	19
(d) 人文科学 (論文指導なし)	20
(e) 社会科学 (論文指導あり)	9
(f) 社会科学 (論文指導なし)	9
(g) 自然科学	8
(h) 共通分野	13
(i) 一般教育演習・文系	20
(j) 一般教育演習・理系	17
(k) 基礎科目・自然科学 A (物・化・生・地)・その他	55
(l) 基礎科目・自然科学 B (数学・統計)	29
(m) 英語	41
(n) 英語以外の語学	41
計	287

(3) 授業の中に視聴覚的・聴覚的教材を利用していますか。

(4) 試験は何回行っていますか。

(5) 成績評価をどのように行っていますか。

回答は平成 12 年度後期の成績の提出時に共通教育係を通じて回収し、全部で 287 通得られた。開講コマ数に比べて回答数がかなり少ないので、以下の分析については少し割り引いて判断していただきたい。このような難点はあるが、北大の全学教育の傾向について、ある程度の展望が得られたと考えている。

回答を分析するには、科目ごとに授業の性格が変わるので、この調査では、表 1 のような科目群を設定して見ていく。一律に同じ質問をしているので、科目群によっては質問が的はずれになることもあるが、この点については適宜判断していただきたい。

一部の科目群 (a, b, m) では回答数が科目の性質上極端に少ないところもあるので、統計的に扱うには

注意する必要がある。

詳しい分析は本論に譲るが、ここで少しだけ回答の傾向に触れておく。たとえば、質問 (1) 「授業の中で学生の発言を促すための工夫をしていますか」の回答では、「はい」と回答する割合が 50% をこえる科目群は全科目群の 2/3 あり、かなり工夫されているという結果が出ています。さらに言えば、80% 以上の科目群は、健康体育科目、社会科学 (論文指導あり)、文系・理系の一般教育演習、英語およびその他の語学の 6 科目群あるという具合である。これらのことは、最初に分析するクラスサイズの観点からは、北大の全学教育は概してクラスサイズが小さいということにも大いに関係しているといえる。

2. クラスサイズについて

まず、クラスサイズの観点から見てみよう。

アンケートの Part I の質問 (3) 「出席している学生

数の平均を概数でお答え下さい」の意図は履修登録者数ではなく実際に授業に出てくる学生数の平均を尋ねることであった。何百人もの大講義では数えたこともなくて履修登録者数を答えているかも知れない。それはともかく、Part I の質問(3)に対する回答を、表2のように設定したクラスサイズにわけ、各科目群の各クラスサイズごとの頻度を集計した。回答数の総数が表1と異なるのは学生数の欄に記入のない回答がいくつかあったからである。

教養科目の人文科学、社会科学、自然科学の3分野は論文指導の場合を除いてクラスサイズの散らばり方が大きい。共通分野と基礎科目についてもその傾向がみられる。このことは Part II の回答にも反映することになる。

人文科学と社会科学の2分野では、論文指導付きの場合は、2、3の例を除いて約30名程度以下という合理的な数になっている。一般教育演習は理系・文系とも1つを除いて25名以下の規則通りになっている。一般教育演習は本来は20名以下が原則であるが、履修希望者が多い場合は抽選で25名に絞ることになっている。

語学のクラスは30～50名のところに集中している。例外なのはタイプの異なる授業である。

全体でみると、80%弱の218科目が55名以下で、約半数にあたる147科目が35名以下になっていて、北大の全学教育はクラスサイズの小さいものが多いといえる。5名以下の科目が14あるが、これについては授業の中身が濃いことが期待され意欲のある学生には満足 of いくものであると思われるが、効率が悪いという見方も一方にはあり得る。

3. 質問1「学生の発言を促す」

質問1の内容は「授業の中で学生の発言を促すための工夫をしていますか」ということであった。単純集計の結果を表3に示す。

まず「はい」と回答している割合をみると、50%をこえる科目群は15科目群中10あり、かなり工夫されているという結果が出ている。さらに言えば、80%以上の科目群として、(a)健康体育科目100%、(e)社会科学(論文指導あり)100%、(i)一般教育演習(文系)93%、(j)一般教育演習(理系)85%、(m)英語83%および(n)その他の語学98%の6科目群がある。全体の平均では67%である。(なお、回答のなかには「いいえ」

と答えて「その他」の欄に工夫をかけたものがいくつかあった。)ひとことでまとめると、北海道大学の全学教育では、学生の発言を促すための工夫がかなりなされているといえる。

次にアンケートで例示した4つの項目について見てみよう。

1番目の「講義中に学生に頻繁に質問する」という項目にチェックした回答は全体で50%あり、4項目の中でも最も頻度が高い。これは、「総合講義」、「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」のような、少し学生数の多いクラスになると学生の発言を促すためのほとんど唯一の手段ということだと考えられる。

2番目の「講義中あるいは後での討論に力を入れる」については、20%をこえるものは、「人文科学(論文指導あり)」、「社会科学(論文指導あり)」、「一般教育演習・文系」の3科目群であり、このような授業では討論が重要な位置を占めているものと思われる。

3番目の「小グループ討論」も、2番目との区別が微妙であるということもあるが、同じような結果である。違いは、「人文科学(論文指導あり)」で低くなって、「社会科学(論文指導なし)」や「英語」、「英語以外の語学」で割合が少し高くなっていることである。

4番目の「ディベート」では、「社会科学(論文指導あり)」、「社会科学(論文指導なし)」、「一般教育演習・文系」が特に多い。これらの科目の特質と「ディベート」の相性がよいのであろう。

以上の4項目の他にも、全体平均で23%の授業で、なんらかの工夫が行われており、それらは科目の内用によってさまざまなバリエーションがある。記述式の回答からみていこう。

- ・学生に出席カード兼用の「質問・感想カード」を書いてもらうようにしている。次回以降の授業に生かしたり、回答したりしている。(健康体育科目)
- ・学生の発表を中心とする時間を作っている。(総合講義)
- ・講義の後に講義に関する質問。自分が考えたこと、感想等を書かせレポート。次回にレポートに対して説明、講評等を行っている。(〃)

「人文科学」と「社会科学」では原典を読んだの発表、グループ作業などがおこなわれている。

- ・原典の翻訳を読ませて発表させる。また、発表内容について出席者全員からコメントを求める。コ

表2. クラスサイズの分布

	科目	回答数	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~35	36~45	46~55	56~65	66~75	76~95	96~105	105~135	136~175	176~225	226~285	286~355	356~435	436~525	526~625	625~950
a	健康体育科目	2								1			1										
b	総合講義	4						1	1				2										
c	人文科学 (論文)	19	4	3	2	3	1	3	1	1			1										
d	人文科学 (なし)	20		1	1	1	1	6	2	1		1	2	2	1	1							
e	社会科学 (論文)	9	1	2	2	1	1	2															
f	社会科学 (なし)	9			1					2	2				1		1	1					1
g	自然科学	8		2				2			1		1			1						1	
h	共通分野	12					1	2	2		1		1	3	2								
i	演習・文系	20	5	7	2	3	2	1															
j	演習・理系	17	4	5	2	1	5																
k	基礎科目A他	54				2	1	9	9	7	11	7	5	2		1							
l	基礎科目B	29			1	1	1	7	3	8	5				1	1				1			
m	英語	41						11	16	10			2	1		1							
n	英語以外	41		2	2		3	26	6	1				1									
	計	285	14	22	13	12	16	70	40	31	20	8	15	9	5	4	1	1	1	1	0	1	1
	累計		14	36	49	61	77	147	187	218	238	246	261	270	275	279	280	281	282	283	284	285	

表3. 質問1「授業の中で学生の発言を促すための工夫をしていますか。」

科目	回答数	はい	質問	討論	小グル	ディベ	その他
a 健康体育科目	2	100%	0%	0%	0%	0%	100%
b 総合講義	4	75%	0%	0%	0%	0%	50%
c 人文科学(論文)	19	58%	42%	21%	5%	5%	16%
d 人文科学(なし)	20	60%	50%	0%	5%	0%	15%
e 社会科学(論文)	9	100%	67%	33%	33%	22%	33%
f 社会科学(なし)	9	44%	33%	0%	22%	11%	22%
g 自然科学	8	38%	25%	0%	0%	0%	25%
h 共通分野	13	19%	0%	0%	0%	0%	15%
i 演習・文系	20	93%	65%	30%	30%	10%	15%
j 演習・理系	17	85%	65%	12%	6%	0%	24%
k 基礎科目 A 他	55	51%	27%	16%	0%	0%	25%
l 基礎科目 B	29	40%	24%	0%	0%	0%	24%
m 英語	41	83%	76%	10%	24%	7%	20%
n 英語以外	41	98%	90%	5%	15%	5%	27%
全体平均	287	67%	50%	10%	10%	4%	23%

メント内容をふくらませるかたちで講師が完成。
あわせて思想史、文化史的な事項を解説する。(人文科学)

- ・小グループに課題を与え、作業をさせている。(＼)
- ・講義終了後に質問をする学生がよくいるので、できるだけ丁寧に話をするようには心掛けてはいる。(＼)
- ・講義の最後にリアクションペーパー(感想・質問のメモ)を提出させている。(＼)
- ・授業中に2～5分で考えるexerciseを2～3回。(＼)
- ・プリントについての意見を準備させる。(社会科学)
- ・レポーター発表→小グループ討論→グループ別発表→全体討論。(社会科学)
- ・プレゼンテーションを行わせる。(＼)
- ・グループでの研究・調査と発表。(＼)

「自然科学」や「情報処理」では次のとおり。

- ・講義終了後に何人かが質問に来る。(自然科学)
- ・毎回質問票を提出させ、次回資料に回答を記載した。(＼)
- ・実習のため自然に質問が出る。(共通分野・情報処理)

「一般教育演習」はもともと少人数教育であるが、次のようなことが行われている。

- ・メールによる質問をさせている。(一般教育演習・文系)
- ・授業終了後コメントをかならず書かせる。(＼)
- ・質問をカードに毎回書かせて出席とする。(一般教育演習・理系)
- ・輪講形式をとり発表している学生に質問して答えさせる。(＼)
- ・学生はのってこない。工夫が足りないということか。(＼)

- ・演習問題を個々に割り当て発表させている。(＼)

「基礎科目・自然科学分野 A, B」は、物理、化学、生物、数学、統計などの科目で中規模のクラスサイズであり、次のようなことが行われている。

- ・講義中に挑発的なコメントを入れる。(基礎科目・自然科学分野 A)
- ・出席簿順に呼び出して黒板に演習の解答を書かせている。(＼)
- ・演習を交え、話しながら解く。(＼)
- ・簡単な実験を行い、教科内容との関連を問う。(＼)
- ・演習問題を、2 回に 1 回出して、出来た学生に黒板に書かせて説明させている。(＼)
- ・質問書の提出と、それに対する解説。(＼)
- ・時間のおしまい 10 分程の間、小テストを兼ねて質問を書かせる(口頭の代わり)。(＼)
- ・授業の最終日は丸々質問・討論をした。(＼)
- ・学生自身にある特定のテーマについて発表させる。
- ・授業の後に質問の時間を設けている。(＼)
- ・ポスター発表を行う。(＼)
- ・e-mail で質問をとっている。(＼)
- ・(授業中、授業の最後も含めて)大事な項目の説明後に必ず確認、質問を促す。(＼)
- ・演習問題を全て解かせて、黒板で説明させる。(基礎科目・自然科学分野 B)
- ・答えが返ってくるためしがないので、あらかじめ順に指名することを伝えておく。(＼)
- ・問題を解かせる。(＼)
- ・演習中に対話する。(＼)
- ・小グループによる「研究発表」。(＼)

最後に「語学」であるが、語学特有のさまざまな工夫が報告されている。

- ・ Dialogue reading, role playing, pronunciation accuracy through teaching the phonology of English, and comparison of British and American English accents. (英語)
- ・当番を決め、指定範囲を予習させ、事前に e-mail で質問させている。(＼)
- ・毎時間、学生各自に英文音読と英文解釈を担当させている。(＼)
- ・小テスト。(＼)

- ・自発的に発表した場合はプラスアルファすることをルールとする。(＼)
- ・プレゼンテーション、スピーチを行わせる。インタラクティブ用のゲームを行う。(＼)
- ・学生にまず質問させてから説明をする。(＼)
- ・テストの際に質問事項を書かせるようにしている。(英語以外の語学)
- ・2人ずつグループを作って、会話の練習をするように指導する。(＼)
- ・テキストを音読させる。(＼)
- ・ペアワークを頻繁におこなう、その際学生のあいだをまわって歩くと質問しやすい。(＼)
- ・パートナー練習、グループ練習。(＼)
- ・グループ、ロールプレイ。(＼)
- ・外国語なので毎回口頭で話す訓練をします。(＼)
- ・反復練習と質問。(＼)
- ・ pair activities, reading jokes, reading their even topics. (＼)
- ・講義中練習問題。(＼)
- ・質問はないか、と毎回少なくとも 1 回学生に尋ねます。(＼)

4. 質問 2「宿題を与える」

質問 2 の内容は「宿題を与えていますか」ということであり、単純集計したものが表 4 である。「はい」という答えが 50% 以上の科目群は 8 あり、そのうち 80% を越えているものが 3 あった。

内容としては、質問者があらかじめ設定した項目では、「レポート」の項目が多く、論文指導の科目では当然多くて 100% でもよいはずであるが、回答者が質問の意味を違う風に解釈したのかも知れない。レポートの「返却」の欄は、例えば総合講義では 25% がレポートを課して 25% が返却するので返却率は 100% ということである。

練習問題などを課するのは基礎科目・自然科学 B (数学・統計学) と語学関係科目に多く、読書や文献要約などは論文指導科目に多いという自然な結果が出ている。

その他にどのような宿題が出されているのであろうか。記述式回答からいくつか見ることにしたい。ただし、回答の中にはレポートなどに関する注釈も含まれている。また、回答例にあって気付いたことであるが、授業の予習・復習は余りにも当然のこととして宿

表 4. 質問 2「宿題を与えていますか。」

	科目	回答数	はい	レポ	返却	練習	読書	文献	翻訳	その他
a	健康体育	2	50%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
b	総合講義	4	25%	25%	25%	0%	0%	0%	0%	0%
c	人文（論文）	19	79%	68%	47%	0%	26%	11%	0%	5%
d	人文（なし）	20	35%	20%	10%	15%	15%	0%	0%	5%
e	社会（論文）	9	100%	78%	44%	22%	11%	22%	0%	22%
f	社会（なし）	9	22%	11%	0%	0%	11%	0%	0%	0%
g	自然科学	8	22%	22%	11%	0%	0%	0%	0%	0%
h	共通分野	13	54%	31%	4%	23%	0%	0%	0%	8%
i	演習・文系	20	85%	45%	38%	15%	20%	25%	20%	15%
j	演習・理系	17	47%	29%	15%	12%	0%	0%	0%	18%
k	基礎科目 A 他	55	45%	36%	16%	11%	2%	2%	0%	4%
l	基礎科目 B	29	64%	34%	19%	41%	0%	0%	0%	17%
m	英語	41	76%	12%	10%	44%	17%	12%	17%	32%
n	英語以外	41	88%	12%	12%	63%	7%	0%	12%	29%
	全体平均	287	62%	30%	18%	26%	9%	5%	6%	15%

題とは考えていない回答者がほとんどである。

その他の宿題に関して、次のような回答があった。

- ・最終レポートの前にドラフトの提出を促して、添削，書き直しのやり取りをくりかえす。（人文科学）
- ・直接の宿題とは異なるかもしれないが，毎回授業時に，前回学習事項の小テストを実施しており，学生たちは必ず自宅で学習するようにしている。（"）
- ・プリントについての意見を準備させる。（社会科学）
- ・社会調査（ヒアリング等）。（"）
- ・実習課題（毎週）。（共通分野・情報処理）
- ・レポートの結果は Web 上に載せている。（"）
- ・ネットワーク型教材の自習を促している。（一般教育演習・文系）
- ・社会調査（ヒアリング等）。（"）

- ・講義の後半に問題を与え，回答後に帰宅させている。（一般教育演習・理系）
- ・演習形式で行ったので，その発表内容を調べてきた。（"）
- ・レポートをもとにしたポスター発表をさせている。（基礎科目・自然科学 A）
- ・講義の後，テキストの演習問題についての質問がよくあるので答えている。（基礎科目・自然科学 B）
- ・レポートは自由提出。（"）
- ・たびたびは出さず，普通 1 回だけ出す。同じ答案が多くて，2 回目出す気がなくなる。（"）
- ・試験を行っている。（"）
- ・チェック，返還，ディスカッションをやっていると進度が遅れてしまう。「数学演習」の時間は別に設定すべき。（"）
- ・要約の他に，自分の考えを小論文にして書かせている。（基礎科目・その他）

同じ語学でも英語とその他の外国語では様子が少し異なるようである。

- ・英語 III での作文課題。(")
- ・CALL 自習教材。(")
- ・レッスンの予習。(")
- ・テープを聞く, 感想文 (1, 2 回)。(")
- ・授業の予習を行うことが宿題だとすれば, 与えていることになる。(")
- ・講演会の感想文の提出。(")
- ・リスニングではテープ教材の聞き取り, ライティングでは自由英作文。(")
- ・グループの協同作業。ホームページ英語作成。(")
- ・エッセイ。(")
- ・小テストのための勉強。(英語以外の語学)
- ・毎回小テストを行う。(")
- ・毎回小テストを実施するので, そのためのテスト文の暗記。(")
- ・毎回, 授業の最後に次の授業までに暗記してくる

新出単語や本文を指定し, 次の授業のはじめにヒアリング小テストをしています。小テストは学生に返却しています。(")

- ・作文する。(")
- ・中国語発音記号の暗記。(")
- ・予習として。(")
- ・語学トレーニング。(")
- ・外国語テキストの下調べ。(")
- ・writing topics and memorizing them. (")

5. 質問 3 「視聴覚的教材を使う」

質問 3 の内容は「授業の中に視聴覚的・聴覚的教材を利用していますか」ということであった。単純集計の結果を表 5 にしめす。科目群によって視聴覚的教材の有効性が異なることを念頭におかなければならないが, 「はい」という回答が 70% 以上の科目群は, (b) 総合講義 100%, (f) 社会科学(論文指導無し) 78%, (g) 自然科学 83%, (h) 共通分野 77%, (j) 一般教育演習(理系) 76%, (m) 英語 71%, (n) 英語以外の語学 83%

表 5. 質問 3 「授業の中に視聴覚的・聴覚的教材を使っていますか。」

科目	回答数	はい	ビデオ	テープ	コンピ	インタ	その他
a 健康体育	2	50%	50%	0%	0%	0%	50%
b 総合講義	4	100%	75%	0%	25%	25%	25%
c 人文科学(論文)	19	47%	26%	5%	0%	0%	11%
d 人文科学(なし)	20	45%	25%	10%	10%	5%	30%
e 社会科学(論文)	9	44%	22%	0%	22%	22%	0%
f 社会科学(なし)	9	78%	67%	0%	11%	11%	11%
g 自然科学	8	83%	22%	0%	22%	0%	22%
h 共通分野	13	77%	0%	0%	46%	54%	15%
i 演習・文系	20	45%	25%	5%	10%	15%	10%
j 演習・理系	17	76%	41%	0%	24%	6%	29%
k 基礎科目 A 他	55	28%	11%	0%	4%	0%	20%
l 基礎科目 B	29	7%	0%	0%	0%	7%	7%
m 英語	41	71%	46%	63%	7%	2%	15%
n 英語以外	41	83%	56%	68%	2%	2%	5%
全体平均	287	53%	29%	20%	9%	7%	15%

であった。最も低い7%の(l) 基礎科目Bは「線形代数学」と「微分積分学」であるが、これらの科目は最も古典的な視覚的教材である黒板をフルに使う授業をしているので、黒板も考えにいれば実は100%ということになる。全体に現代的視聴覚的教材がよく使われており、著者たちが学生であった20～30年前とくらべると隔世の感がある。

実際に使っている視聴覚的・聴覚的教材について、ビデオ、音声テープ、コンピュータ、インターネットを例示して質問したが、これは複数回答ありの形式のものであるということと、表5のパーセンテージは「はい」と答えた回答者数に対する比ではなく、その科目群の全回答者数に対する比であることに注意する必要がある。

「ビデオ」については、(b) 総合講義75%、(f) 社会科学(論文指導無し)67%は驚異的な多さであり、(a) 健康体育50%、(j) 一般教育演習(理系)41%、(m) 英語46%、(n) 英語以外の語学56%もかなりの高率で使っている。ビデオ以外で頻度の高いものをみていくと、「音声テープ」の(m) 英語63%、(n) 英語以外の語学68%、および「コンピュータ」の(h) 共通分野(「情報処理」を含む)46%、さらに「インターネット」の(h) 共通分野54%は当然と言えば当然かも知れない。音声テープは語学などで重宝される特殊な教材と考えられるが、コンピュータやインターネットなどはかなり使用されていて、これからも増えていくと考えられる。

「その他」の項目で記述式の回答をみると、OHP(回答数20)やスライド(回答数8)が多く、最新式のOHC(資料提示装置、回答数5)も使われている。他の回答例を以下に列挙する。

- ・ノートPCとメディアプロジェクター。(人文科学・論文指導あり)
- ・原本コピー。(〃)
- ・画像資料、コピーにして、一人ずつに配布している。(人文科学・論文指導なし)
- ・写真集などを資料提示装置を使って見せる。(〃)
- ・大型本(写真を資料として見せる)。(一般教育演習・文系)
- ・挿画や写真などを見せて、内容の理解を深める。(〃)
- ・OHPの他に実際に利用されている材料を見せる。(一般教育演習・理系)
- ・演示実験(〃)

- ・簡単な実験を行う。(基礎科目A)
- ・OHC、生物実物を見せる。(〃)
- ・Supplementary functional dialogues for traveling and living abroad (英語)
- ・OHCでhand outをみせる。
- ・パワーポイント、ディベート用チャット、教材呈示装置による図、インテリジェントパッドを使ったエディター、FDからスクリーンに映写。(〃)
- ・ドイツの雑誌、写真など(英語以外の語学)

6. 質問4「試験の回数」

質問4の内容は「試験は何回行っていますか」ということであった。科目群ごとの回数の分布を単純集計したものを表6に示す。最大の回数は15回であった。少し整理して書く科目群内でのパーセントを計算したものを表7としてまとめた。

傾向としては、(k) 基礎科目A、(l) 基礎科目B、(m) 英語、(n) 英語以外の語学の4角科目群が試験を多数回していることがわかる。試験をしない科目もたくさんあるが、それはその科目の性格によりレポートその他の方法で成績を付けていると考えられる。試験を15回する科目も少なからずあるが、1～2回の試験をするのが多いようだ。

7. 質問5「成績評価」

質問4の内容は「成績評価をどのように行っていますか」ということであった。成績評価に利用した項目によって分類したものが表8である。

多い組み合わせの順にみていくと、まず「レポート+その他」、次に「期末試験+その他」、「期末試験100%」と続く。その次にくるのが、「その他100%」ということで北海道大学の全学教育における成績評価の方法が実に多様であることを象徴している。

成績評価に利用した項目のうち「その他」の項目は3つの欄を用意して記述式の回答を求めた。そこに多かった項目は「出席日数」、「小テスト」、「平常点」の3つである。そこでこの3つの項目を記入している回答数を各科目ごとに集計したものが表9である。ここで困ったのは「平常点」という項目で出席や小テストを始め、授業態度などを含めるなど教官によってさまざまな意味で使われている。そこで、「平常点」と考えられるような内容の項目を評価にしている回

表6. 試験の回数

科目	回答数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回	無回答
a 健康体育	2		2															
b 総合講義	4	1	1		1													1
c 人文 (論文)	19	11	3	1	1				1									2
d 人文 (なし)	20	7	11	2														
e 社会 (論文)	9	7	2															
f 社会 (なし)	9	2	5	2														
g 自然科学	8	2	3	1			1											1
h 共通分野	13	8	4			1												
i 演習・文系	20	11	8															1
j 演習・理系	17	13	1		1												1	1
k 基礎科目A他	55	5	33	11	2						1		1				1	1
l 基礎科目B	29	1	6	13	5			1						1			1	1
m 英語	41		14	13	2	1	2	2				1	2		1		3	
n 英語以外	41		8	10	12	1	1	4				2			1		1	1
計	287	68	101	53	24	3	4	7	1	0	1	3	3	1	2	0	7	9

表 7. 試験の回数 (パーセント)

科目	回答数	0 回	1 ~ 2 回	3 ~ 6 回	7 ~ 10 回	11 ~ 15 回	無回答
a 健康体育	2	0%	2 100%	0%	0%	0%	0%
b 総合講義	4	1 25%	1 25%	1 25%	0%	0%	1 25%
c 人文 (論文)	19	11 58%	4 21%	1 5%	1 5%	0%	2 11%
d 人文 (なし)	20	7 35%	13 65%	0%	0%	0%	0%
e 社会 (論文)	9	7 78%	2 22%	0%	0%	0%	0%
f 社会 (なし)	9	2 22%	7 78%	0%	0%	0%	0%
g 自然科学	8	2 25%	4 50%	1 13%	0%	0%	1 13%
h 共通分野	13	8 62%	4 31%	1 8%	0%	0%	0%
i 演習・文系	20	11 55%	8 40%	0%	0%	0%	1 5%
j 演習・理系	17	13 76%	1 6%	1 6%	0%	1 6%	1 6%
k 基礎科目 A 他	55	5 9%	44 80%	2 4%	1 2%	2 4%	1 2%
l 基礎科目 B	29	1 3%	19 66%	6 21%	0%	2 7%	1 3%
m 英語	41	0%	27 66%	7 17%	1 2%	6 15%	0%
n 英語以外	41	0%	18 44%	18 44%	2 5%	2 5%	2%

(注) 試験の回数が 0 回の科目が多いけれども次の節の成績評価の表をみれば , 試験より手間のかかるレポートその他の手段で評価が行われていることが分かる。

表8. 成績評価の方法

科目	回答数	期末試験 100%	レポート 100%	その他 100%	期末試験 + 中間試験	期末試験 + レポート	期末試験 + その他	中間試験 + レポート	中間試験 + その他	レポート + その他	期末試験 + 中間試験 + レポート	期末試験 + 中間試験 + その他	期末試験 + レポート + その他	期末試験 + 中間試験 + レポート + その他	無回答
a 健康体育	2		1												
b 総合講義	4		2			1									
c 人文 (論文)	19	2	2	3						11			1		
d 人文 (なし)	20	4	7	1	2		3			2			1		
e 社会 (論文)	9	1	1	1						6			1		
f 社会 (なし)	9	3		1			1			4					
g 自然科学	8	1			1	1				3		1			1
h 共通分野	13	3	3	1	1	1				4					
i 演習・文系	20		3	4			1	1		10			1		
j 演習・理系	17		2	4				1		9					1
k 基礎科目A他	55	19	2	4	2	7	8			2	4	2	4		1
l 基礎科目B	29	2	1	2	10	1	1				5	2	1	4	
m 英語	41	1		9	8		18				1	2		1	
n 英語以外	41			4	5	1	11				1	17		2	
計	287	36	24	34	29	11	44	2	1	51	11	24	9	7	3

表9. 出席などの成績評価への考慮

	科目	回答数	出席日数 and/or 平常点 and/or 小テスト		出席日数		平常点		小テスト	
a	健康体育	2	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%
b	総合講義	4	2	50%	2	50%	0	0%	1	25%
c	人文 (論文)	19	13	68%	10	53%	3	16%	0	0%
d	人文 (なし)	20	5	25%	3	15%	2	10%	0	0%
e	社会 (論文)	9	5	56%	1	11%	4	44%	0	0%
f	社会 (なし)	9	6	67%	4	44%	1	11%	1	11%
g	自然科学	8	6	75%	5	63%	1	13%	0	0%
h	共通分野	13	6	46%	5	38%	2	15%	0	0%
i	演習・文系	20	13	65%	9	45%	10	50%	0	0%
j	演習・理系	17	11	65%	7	41%	4	24%	0	0%
k	基礎科目A他	55	19	35%	15	27%	3	5%	3	5%
l	基礎科目B	29	9	31%	3	10%	2	7%	4	14%
m	英語	41	29	71%	11	27%	19	46%	10	24%
n	英語以外	41	33	80%	14	34%	17	41%	12	29%
	計	287	158	55%	90	31%	68	24%	31	11%

答は「平常点」の項目としてカウントしてある。「出席」と「小テスト」はこれらの言葉がそのままはいつている者の回答数である。さらに、毎回の授業で何らかの方法で評価が行われるという意味で「出席日数 and/or 小テスト and/or 平常点」という項目をたてて表9の最初に置いたが、この項目がもっとも妥当なものだと考えている。

上の3つの項目以外に「その他」として記入されている評価項目を見てみよう。以下では「出席...20%」、「小テスト...30%」「平常点...40%」のような単純な回答は省略し、表8や表9では読みとれない詳細の例を

いくつか拾ってある。ほんの一部であるが、北海道大学における全学教育の成績評価方法の多様性が窺える。

まず、(a) 健康体育科目では次のような回答があった。

- ・出席日数約...20%、期末試験の成績と出席日数を勘案しながら評価する。

(b) 総合科目では次のような回答があった。

- ・出席とその感想...50%
- ・各教官毎、小テスト、レポート、出席等で評価

(c) 人文科学 (論文指導あり) では次のような回答があった。

- ・ 発表内容 ...4% , 出席回数 ...20%
- ・ 小レポート 1...25% , 小レポート 2...25%
- ・ 講義中に書かせる要約と感想 ...80%
- ・ 前期 : レポート (3) + 期末考査 ... 各 25% , 後期 : 演習発表 , レポート ... 各 50%
- ・ 文献要約課題 ...5% , 平常点 ...15%
- ・ 出席 ...25% , 授業への参加状況 ...25%
- ・ (出席 ...10% , 質問表での積極的関心の表明 ...20%
- ・ 小論文 ...100%

(d) 人文科学 (論文指導なし) では次のような回答があった。

- ・ 心理学実験 ...10%
- ・ 受講状況 ...20%
- ・ 毎回授業時のリアクションペーパー ...30%
- ・ レポート発表 ...100%

(e) 社会科学 (論文指導あり) では次のような回答があった。

- ・ 小論文 ...50% , 平常点 ...50%
- ・ 個人発表 ...50%
- ・ クラスへの貢献度 ...80%
- ・ 小グループ討論への参加貢献 ...25% , レポーター発表 ...25%
- ・ 最終レポート ...30%

(f) 社会科学 (論文指導なし) では次のような回答があった。

- ・ 出席 ...25% , レポート ...50%
- ・ グループでの調査・発表へのかかわり方 ...50%
- ・ 出席・発言 ...30% , 発表 ...40%
- ・ 小テストによる総合評価 ...100%

(g) 自然科学では次のような回答があった。

- ・ レポートの内容 ...20% , 出席 ...40%
- ・ 質問票の内容 ...30%

(h) 共通分野では次のような回答があった。

- ・ 実習課題 ...100%
- ・ 実習状況 , 出席状況 ...40%
- ・ 出席・授業態度 ...40%

(g) 一般教育演習・文系では次のような回答があった。

- ・ 出席 ...30% , 討論参加 ...10%
- ・ 出席状況・各レポートを総合的に評価しており , それぞれの比重をパーセント化することはできない。
- ・ 平常点 - 出席と授業態度 ...100%
- ・ 日常の授業参加 , 発言 , 積極性等日常点 ...30% , 期末試験をレポートと発表の両方ないし片方を選ばせて行った。
- ・ 研究発表 - 調査報告 - の内容 ...100%
- ・ ディベート ...25%
- ・ レジюме完成度 ...50% , 発表・討論 , 態度・参加度 ...50%
- ・ 出席 ...30% , 授業中の発言内容 ...20%
- ・ 出席 ...40% , 議論参画 ...25%
- ・ 予習 ...40% , 出席数・参加度 ...40%
- ・ 出席・演習への参加取り組み状況 ...20% , 報告の内容 ...80%
- ・ 個人発表 ...50%

(h) 一般教育演習・理系では次のような回答があった。

- ・ 発表力 ...10% , 説得力 ...10%
- ・ 出席 ...100%
- ・ 輪講における発表 ...70%
- ・ 演習への主体的参加の態度 , 質問等 ...50%
- ・ 出席 ...40% , なお出席率が 7 割に満たない者はレポートの提出を認めない。
- ・ 授業中の発言等 ...50%
- ・ 演習の回答 ...40% , 出席 ...60%
- ・ 2 回発表を行ってもらい , そのときの内容と毎回の講義への参加態度 , 質問内容 ...100%
- ・ 出席 , 授業態度 ...70%
- ・ 毎回 1 , 2 名発表による ...50% , 討論参加態度 ...50%

(k) 基礎科目・自然科学 A では次のような回答があった。

- ・ 毎回の試験 ...100%
- ・ 出席 ...15% , 演習課題到達度 ...15%
- ・ 授業中の応対点 ...10%
- ・ 演習 ...10%
- ・ 中間試験の結果を合否に考慮する

- ・再試1回
- ・出席...10%, 演習...10%
- ・質問書に書かれた質問内容のレベル...50%, 小テストの成績...30%, 出席...20%
- ・毎回の講義要約...20%, 出席...10%
- ・授業時間内の小テスト...30%
- ・発表...40%
- ・期末試験の成績に出席点も加える
- ・ポスターの発表と討論...50%, 出席...10%
- ・出席 - e-mail の質問...30%
- ・出席...50%, 課題...50%
- ・規定に達していなかった学生へレポートを課す。それ以下の学生は再履修。

(l) 自然科学Bでは次のような回答があった。

- ・再履修か等, 学生の情報を考慮
- ・ボーダーの者には自由提出のレポートを考慮する
- ・計算問題のみの小試験...20%
- ・普段の様子...5%
- ・出席...5%, 期末試験の成績不良者には, 希望に応じ, 課題を与えて提出させている。特に再履修者には配慮している。
- ・小テスト...20点, 問題演習...1問3点

(m) 英語では次のような回答があった。

- ・小テスト...80%) その他2 (授業への貢献度・積極的参加度...20%)
- ・小 Quiz-10回...60%, 出席...10%
- ・小 Quiz-6回...25%, 宿題...25%
- ・宿題...50%, 小 Quiz-6回...50%
- ・出席...30%, 参加度...20%
- ・毎回の予習の内容...20%
- ・preparation...40% class work-oral presentations group work...45%, oral interview...15%
- ・出席状況 + 授業態度...15%
- ・出席, 提出物, 小テスト等平常点...20%
- ・授業での発表...30%, 出席...5%
- ・リスニング試験...20%, 授業参加度...30%, 出席...20%)
- ・宿題, 出席, Class participation
- ・小テスト毎回 + 大テスト2, 3回
- ・TOEFL - リスニング, リーディング。またはミシガン プレースメントテスト - 学期始めに学生の英語力をみるため。感想文。...30%; 感想文等を宿

題に出しても全員提出しません。また全員の英文をチェックするのは大変です。ですから提出した宿題をチェックして戻し, 成績に関しては, 参考とします。リーディングのクラスですが, 書かせると確実に力がつきます。これを本格的に全員に課すには人数が多すぎます。

- ・毎回の小テスト + 統一試験
- ・平常点...30%, 出席...20%
- ・授業時の発表内容...15%, エッセイ...20%
- ・小テスト...15 ~ 20%; 出席率, 授業への参加度...20%
- ・授業に遅刻せず, 5分の4以上出席していることが前提条件です。
- ・出席状況 + 平常点...10%
- ・単語のテスト平均50点以上必要条件。定期テストに単語のテストの平均の1割をプラス。発表1回を1点として加点, 欠席1回はマイナス1点。
- ・授業での発表内容, 予習状況等...20%
- ・技能別に異なるし, 英語では統一試験も入ってくるので, 一概にはいえない。基本的には, 出席, 予習, 授業への参加, 課題等平常点と中間, 期末の試験の点を半々でみている。
- ・授業中に評価 - 発音, 読解, ディベート, プレゼンテーション, スピーチ等。) その他2 (科目の特性により異なる。英語、, 期末30 + 中間と平常点20 + 統一試験50。英語」, レポート「作文課題エッセイ8回」80% + pre-post test, chat-log 20%。英語演習, スピーチ2回 40% + ディベート, プレゼン等 60%
- ・平常試験の平均点...100 %; IVは平常試験 50 %, 英語学力統一試験 50%; 演習は平常点
- ・平常点 - 小テスト, 発表等...33%
- ・文献要約...10%, 平常点...20%

(n) 英語以外の語学では次のような回答があった。

- ・日常の学習状況 - 質問に対する...10%, 日常の出席状況と授業態度...10%)
- ・小テスト2回...20%, 授業出席...20%
- ・宿題...20%, 小テスト...20%
- ・小テスト...10%, 出席...10%
- ・ヒアリング小テスト...50%
- ・出席...15%, 小テスト...15%
- ・小試験, 出席, 予習状況等...50%
- ・平素の授業での発表等...20%, CALL 教材の学習

- 時間や成績 ...20%
- ・授業中の受け答えと積極性 ...40%)
- ・(試験, 提出物, 出席, 統一試験
- ・小テスト, 練習問題 ...30%
- ・総試 ...33%, 平常点 ...7%
- ・授業への参加度 ...9%
- ・授業での出来具合・出席等 ... 約 10%, 統一試験
- ・出席 ...5%, 授業への参加度 ...5%
- ・統一試験 ...33%
- ・質問に対する学生の答え方 ...20%
- ・出席, 受講態度 ...10%, 統一テスト ...30%
- ・上記 5 ~ 6 回の小テスト ...70 %, 統一テスト ...30 %
- ・授業態度 - 発言度 ...30%
- ・統一試験 ...30%)
- ・Ⅱ 及び Ⅱ a は授業時試験による評価 70 % 《2 コマを 2 人の教官がやっているクラスは 35% + 35%》 + 統一テスト 30 % = 100 % ; 演習及び特別講義は 平常点 50% + 試験 50% = 100%
- ・平常時に行うテスト ...30%
- ・home task...20%, class participation...10%, attendance...10%, oral examination...25%
- ・毎回の講義での評価 ...100%

- ・出席 ...20% 平常点 - 例えば練習問題の解答率 ...20 %

8. おわりに

以上の結果を, 平成 12 年度後期の時点での北海道大学における全学教育は, 比較的少人数の授業が多く, 全般的には学生に発言を促す工夫がなされ, 現代的なメディア教材が使用されている授業も少なからずあるというように (比較すべきデータが現れるまで仮に) まとめておく。成績評価の方法についてはことに多様であるが, これは多様な形態の科目が存在することの反映であると考えられる。ここで使ったデータは平成 12 年度後期の全学教育の 1/2 から 1/3 の科目の担当者からの回答がもとになっている。回答数が少な目だが実際の姿からそんなには離れていないと考えられる。このような調査は今回が初めてであり, また平成 13 年度からはコアカリキュラムを導入した新しい全学教育の枠組みがスタートしたこともあり, 今回得られたデータは新しい全学教育と比較・検討するための資料としての意義もあると考えられる。

全学教育科目に関するアンケート調査

全学教育担当者の皆様へ

全学教育科目が実際にどのように行われているかを調査しています。 回答をよろしく
お願いします。

所属

ふりがな
氏名

Part I

(1) 科目の区分(分野) 対応する□にチェックしてください。

- ☐ 健康体育科目 (☐ 健康科学 ☐ 体育学)
- ☐ 教養科目 (「論文指導」に指定されていますか。 ☐ はい ☐ いいえ)
 - ☐ 人文科学分野 (☐ 思想と心理 ☐ 歴史と文化 ☐ 言語と文学)
 - ☐ 社会科学分野 (☐ 社会基礎構造 ☐ 社会関係と社会構造 ☐ 法と制度)
 - ☐ 自然科学分野 (☐ 自然の構造としくみ ☐ 人間・環境と科学 ☐ 数理の世界)
 - ☐ 総合講義
 - ☐ 一般教育演習
 - ☐ 共通分野
- ☐ 基礎科目 (☐ 自然科学分野 A ☐ 自然科学分野 B ☐ その他)
- ☐ 専門科目
- ☐ 外国語科目 (☐ 外国語 I ☐ 外国語 II ☐ 外国語演習 ☐ 外国語特別講義)
- ☐ 日本語科目及び日本事情に関する科目

(2) 授業科目名を記入してください。

(3) 出席している学生数の平均を概数でお答え下さい。

約

名

Part II

(1) 授業の中で学生の発言を促すための工夫をしていますか。 ☐ はい ☐ いいえ

「はい」と答えた方に

..... どのような形で発言を促していますか。

- ☐ 講義中に頻繁に学生に質問する
- ☐ 講義中あるいはあとの討論に力をいれる
- ☐ 小グループ討論
- ☐ ディベート

その他：

(2) 宿題を与えていますか。 ☐ はい ☐ いいえ

「はい」と答えた方に

..... どのような形式の宿題を出していますか。

- ☐ レポート (回数はどれくらいですか。 約 回)
(レポートを学生に返却していますか。 ☐ はい ☐ いいえ)
- ☐ 練習問題・演習問題
- ☐ 読書指定
- ☐ 文献の要約を書かせる
- ☐ 翻訳

その他：

(3) 授業の中に視聴覚的・聴覚的教材を利用していますか。 ☐ はい ☐ いいえ

「はい」と答えた方に

..... 教材の種類をお答え下さい。

- ☐ ビデオ
- ☐ テープ・CD 等 (音声)
- ☐ コンピュータ
- ☐ インターネット

その他：

(4) 試験は何回行っていますか。

回

(5) 成績評価をどのように行っていますか。

期末試験	% ,	中間試験	% ,	レポート	%
その他 1 (					%)
その他 2 (					%)
